

ぐっちゃんの

## いきものバンザイ!!



### マルバテショウソウのこと

マルバテショウソウという植物をご存知でしょうか。今回は、土佐清水市にも生育するこの植物について、少し紹介したいと思います。

マルバテショウソウは明るい林の中に生育するキク科の多年草です。少し銀色がかった色のハート型の葉を地面に広げたような格好をしていて、秋になるとそこから花がつくための茎が垂直に伸びてきます。そして 11 月から 12 月にかけて、小さな白い花を咲かせます。この花が少し変わっていて、白くて細い花びらがねじれてついていて、まるで小さな風車のように見えます。すらりと伸びた茎に小さな花をたくさんつけた姿は可憐で、思わず見惚れる美しさです。

マルバテショウソウは日本では九州西部・南部に点々と分布しており、四国では土佐清水にしか生育していない貴重な植物でもあります。1978 年に土佐清水市下ノ加江地区で発見され、ここ土佐清水がマルバテショウソウの分布の東限にあたりとされています。およそ 20 年前に豪雨によって自生地の環境が激変し、一時は市内の自生地の消失が懸念されましたが、2015 年に改めて生育が確認されました。現在では地域の方や地元の下ノ加江小学校、牧野植物園の研究者が協力して守っています。

牧野植物園の瀬尾研究員によると、マルバテショウソウは夏にはほどよい木陰があり冬は少し明るい場所、例えば木々の葉を落とす落葉広葉樹林の、水はけのよい斜面に好んで生育します。ところが、今月の「市史編さん室だより」の項でも紹介していますが、暖温帯に位置する土佐清水市の森林は、自然の状態では、冬でも葉が落ちない常緑広葉樹林（照葉樹林）です。現在はスギ・ヒノキの植林になっている部分も多いのですが、これらの森は冬になっても葉が落ちず、林の中は暗いまです。

では、少し明るい場所を好むマルバテショウソウは土佐清水でどうやって生き残ってきたのでしょうか。その答えは、人による森林の利用だと考えられています。昔の人は薪や木材をとるために、林の木々を伐採してきました。この適度な伐採によって、マルバテショウソウが好む明るい森が守られてきたようです。人と森との関わりが薄くなってきた現代で、マルバテショウソウの住む場所をどう守っていくかがこれからの課題です。

森口夏季（ジオパーク専門員）



◀マルバテショウソウの花。くるとねじれた花弁が可憐です。

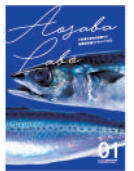
下ノ加江小学校 6 年生が育てた ▶  
マルバテショウソウ

みんなでマルバテショウソウを未来につないでいく活動をしています。



地域研究誌 AOSABA LABO が  
自治体 PR 部門優秀賞を受賞しました！

冊子は Web ページでも  
公開しています。 ▶



## つたえることは、まもること。

地域研究誌アオサバラボは、土佐清水の「なんだかおもしろそう」にスポットを当て、自由に研究してみることをテーマに作成した冊子です。研究を進める中で、土佐清水にはまだ知られていない「土佐清水ならではの宝物」がたくさんあることに気がつきました。ジオパークの視点を通して地域を見ていくことで、実は土佐清水の大地に根差し、長い時間をかけ洗練されてきた「土佐清水ならではの宝物」というべき自然や景色、祭りや食事などに会うことができました。その一方で、それらは急速に変わりゆく時代の中で人知れず失われつつあることもわかりました。せっかく宝物があっても、その価値を伝えていかないと、それはもはや無かったのと同じです。だから宝物に気がついたとき、失くさないように、忘れないように、多くの人たちとその価値を伝えあい、共有する

ことが大事なのです。「土佐清水ならではの宝物」の多くは、土佐清水に住む私たちにとって当たり前だと思っていたものです。当たり前すぎて、価値に気がつくのは意外と難しいかもしれませんが、それぞれが大切に思う宝物があれば、身近な人から少しずつでかまわないので、ぜひ伝えてみてほしいと思います。

私たちは、これからもジオパークを通じて「土佐清水ならではの宝物」を見つけ、土佐清水の、そして地球の面白さをもっと伝えていきたいと思っています。それが土佐清水らしさを守り、未来に引き継いでいくことだと信じて。

ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました！



発行

土佐清水ジオパーク推進協議会 〒787-0450 土佐清水市三崎今芝 4032-2  
TEL 87-9590 MAIL geopark@city.tosashimizu.lg.jp

WEB

